

発達障害、ピアノとともに

シヨパン国際コンの全国大会で入賞

下関市の安岡小学校4年、水岡廉翔君(10)は発達障害で支援学級に在籍しながらピアノに打ち込む。1月には「シヨパン国際ピアノコンクール in ASIA」全国大会小学3・4年生の部で入賞し、アジア大会でも演奏を披露。「将来はピアニストに」と練習に励む。

下関・安岡小4年の水岡君



4歳で近くのピアノ教室(神野由香代表)に通い始めたが、本格的に学ぶまで時間がかかった。障害の特性で、短い時間しかじっとしていられない。気分を抑えることも苦手で、母弘恵さん(50)は「レッスンが始まれば楽しそうでも、家を出る前は大暴れ。連れて行くまでが大変だった」と振り返る。

「将来はピアニスト」

転機が訪れたのは小学校2年生のころ。全国大会で入賞した先輩が新聞で紹介されたことで、「いつか自分も」と思うように。進んで難しい曲を練習するようになったが、2、3年生では結果が出なかった。週1回のレッスンに加え、自宅でも奥行きのないアップライトピアノで練習。「それでも足りない」と近くの西薬寺でグランドピアノを弾か

「将来はピアニストに」と練習に励む水岡廉翔君(左)と指導する神野由香さん(下関市)

せてもらった。弘恵さんがほぼ毎日付き添い「これ以上できない」と練習した。全国大会出場には、各地区大会での入賞が必要。万全の準備をして挑んだ昨年

10月の山口大会で入賞を逃し、「最後のチャンス」と翌月の北九州大会にも出場したが、気負いから満足いく演奏ができなかった。会場で号泣し、閉会を待たずに帰宅。夕食も取らずに泣き続けたが、結果は金賞。教室仲間の電話で入賞を知り、うれしさから再び涙を流した。

念願の全国大会では「自分の中で最高の演奏」を披露して銅賞を獲得。続くアジア大会では入賞を逃したが、演奏後の気持ちは晴れやかだった。

「学校では音楽と絵が好き。ピアノを弾くと天才って言われるのが自慢」。ピアニストを目指す廉翔君の次の目標はアジア大会での

入賞。「小学校を卒業するまでに実現したい」と早速練習に取り組んでいる。支援学級に移った3年生からは症状も落ち着き、感情をコントロールできなくなることはほとんどなくなった。弘恵さんは「ピアノのおかげで居場所ができたことも大きいと思う。出会いに感謝しながら応援したい」と見守っている。